

「山川海をつなぐ水循環体験学習が開催されました」

平成 30年 7月 1日（日）に、八戸市内の山から海までを巡り、水循環という観点から環境公共を県民の皆様に広く知ってもらうため、県民局が主催したバスツアーが開催されました。



参加者が水循環の動きにならい移動をする本イベント。まずは山の水がめ。

●第一の目的地：世増ダム

平成 10年から 15年の 6年間をかけて建設された世増ダム。

参加者は、この大きなダムが水を蓄えて、農業用水や水道に利用していること、水害の抑止力になっていることを学びました。



説明を聞いた後は、参加者の皆さんは青葉湖を望める堤体の上を歩きました。ダムの大きさを実感できたのではないのでしょうか？

近くの揚水機場にも訪れ、ダム湖があった場所に存在していた集落のジオラマを見学しました。



ダムから営農に使われる水は、吐水槽へ進みます。

●第二の目的地：巻の下吐水槽

ダムより高い位置までどのように水を運ぶのか？水を運ぶパイプの見つけ方は？

参加した大人も子どもも、思わずへえ～と言ってしまふ内容がありました。



山、川を巡った水は、海へと流れ着きます。

●第三の目的地：種差漁港

山からの栄養分を十分に受けた海では、活気のある漁業が行われます。

港から近い場所での漁が盛んな種差漁港では、今はウニ漁が盛んです。

南浜漁協の協力により、旬のウニを自分たちで割ってみました。

なかなか出来ない体験のため、皆さん興味津々。

山・川・海へと流れ着いた水循環の旅は、ここで剥きたての新鮮なウニと一緒に、楽しいランチタイムです。





海にたどり着いた水は、一度雲になり、そしてまた山へ戻っていきます。

●第四の目的地：朝もやの館

ここでは三八県民局林業振興課から、「森林の役割」のお話がありました。

森林は水を蓄えてくれる「緑のダム」とも呼ばれますが、全く手入れをしないと樹木の成長が出来ず、森林の役割は弱まってしまいます。

そこで、木を切って森林を整備していることや、その切った木（間伐材）が何に使われているかを学びました。

その後、実際に間伐材を使って、丸太切り体験を行いました。



そして最後に、一日を振り返りながら、「環境公共」についてお勉強。

今回のイベントでは紹介しきれなかった、農林水産業の生産基盤や農山漁村の生活環境の整備なども紹介がありました。

農林水産業を支えることは、地域の環境を守ることに繋がっており、青森県ではその基盤作りのための取組を“環境公共”と定義しています。

環境公共をきっかけに、地域の花壇への植栽活動やゴミ拾い活動といった、共同活動に積極的に参加することで、かけがえのない地域資源を将来に引継ぐことを可能とします。



小さなことからコツコツと。環境公共に共感する仲間が増えるといいですね！

最後に、八戸合同庁舎へ戻り、一日の行程が終了となりました。

参加者の皆様、ありがとうございました。そして、お疲れ様でした！